

## 2013-16年 ISAF 新委員会委員・レースオフィシャルズ関係報告

### 1、新委員会委員

(1) 本年はカウンスルメンバー、ISAF の役員（会長と 7 名の副会長）と委員会委員の改選年で次の通りとなった（JSAF 関係のみ／敬称は略しました）。任期は 4 年。

・カウンスルメンバー：大谷たかを（再）

全員で 40 名（日本は「J グループ（東アジア地区）」に属し [日本、中国、韓国、台湾、香港、フィリピン、グアム、北朝鮮] から 2 名選出、今回選出されたもう一人は Kart C. Kwok (香港／新)、前任は今回 ISAF 副会長に選出された Quanghai Li (中国)。韓国から立候補した Pilsung Lee は他国の支持が得られなかった。

・イベント委員会 大谷たかを（再）

・オフショア&オセアニック委員会 小林昇（再）

・装備委員会 堤智章（新）…JSAF からは初めて就任する委員会

・競技規則委員会 柴沼克己（再）

・レースオフィシャルズ委員会

国際ジャッジ小委員会 増田開（新）

JSAF からは柴沼克己委員以来 8 年ぶり 2 人目／現委員の Pilsung Lee（韓国）は再任されなかった、中国から Xinzu Gu が任命された（中国人としては初）

国際アンパイア小委員会 田中正昭（新）

JSAF からは鈴木明善委員以来 8 年ぶり 2 人目

\* JSAF からは上記委員会の他以下の委員会にも推薦していたが認められなかった

・デベロップメント&ユース委員会…堤智章（前委員は柴沼克己）

・スペシャルレギュレーション小委員会…小林昇（前委員はいない）

\* 他に ORC カウンスルとして植松眞、小林昇が就任しているが 2013 年は未定

### 2、レースオフィシャルズ関係他

(1) レースオフィシャルズ関連の ISAF 規則の一部が改定され 2013 年から実施

(2) レースオフィシャルズ関係（JSAF 関係分のみ／敬称は略しました）

\* 2013 年に日本での IU セミナーの開催を要請した（ROC/IUSC）

\* JSAF からの新規申請者は IRO（インターナショナルレースオフィサー）の岡田彰のみで本年が更新該当年となる者はいなかった。

・岡田彰の申請は認められ、日本の IRO は名方俊介とあわせて 2 名になった。

・ちなみに現在他のレースオフィシャルズは、IM は 1 名（荒川渡／OP）、IU は 1 名（田中正昭）、IJ は 7 名（秋元和子、大谷たかを、榛葉克也、村松哲太郎、前園昇、田中正昭、柴沼克己）で合計 11 名である。

・ISAF レースオフィシャルズ員数一覧

	新規任命	2年任期	4年任期	2011年末総員	2012年末 ISAF 委員
IRO	14	6	34	260	2
IJ	12	33	74	392	7
IU	4	2	21	112	1
IM	20	12	16	102	1

+IM: スナプクラスがゼロであったが1名任命された (USA)

+初めての IRC クラス (レーティングクラス) の IM が任命された (4名、内3名が英国/1名は IRC オフィスダイレクターのマークアーウィン)

(3) 規則 42 に関する ISAF e-Learning システムの構築他

(Rule 42 Internet Based Training Library and Rule 42 e-learning Project)

- ・規則 42 について動画を用いてクイズ方式で勉強するもの。
- ・2013~2016 年 ISAF ルール委員会規則 42 アドヴァイザーとして大谷たかを含む4名が任命された

(4) テクノロジー&トラッキングシステム委員会報告があり、その中でその活用方法の拡大とシステム化についての研究を進めるとのことであった。

(5) レースマネージメント小委員会 (RMSC) 関係

\* 論議された主要内容

- ・若い R0 (レースオフィサー) を育てること
- ・大会に IRO を配置する必要性について、
- ・ISAF の大会についてもっとガイドラインが必要である
- ・レースマネージメントマニュアル、ガイド等に使用する言葉・用語・単語の簡易/平易化について
- ・RMSC レファレンスホームについて (ジャッジのそれとは異なる)
- ・将来の R0 の会議開催計画について

(6) ISAF 派遣アジア大会等のテクニカルデレゲート (TD) について

ISAF2012 年 11 月会議において、韓国インチョン市で開催される 2013 年アジア選手権大会・2014 年アジア大会セーリング競技会の ISAF 派遣 TD として前大会の TD であったオーストラリアの Mark Pryke が再度任命された。

これは韓国セーリング連盟の要請により既に公表されていた大谷たかをから変更されたものである。北朝鮮にセーリング指導に行っていたことがある Mark Pryke と北朝鮮との関係が考慮されたのか、他に韓国側の要因があったのかは不明だが、公表されていた人事が変更されることは異例なことである。

記：柴沼克己  
(国際委員会委員)

2012. 11. 15